

政務活動費活動報告（研修）

- (1) 研修名： 教育改革は、家庭教育支援から切り込め
- (2) 参加者： 矢吹安子
- (3) 日時・場所： 2014年8月4日（月）から8月5日（火）の2日間
東京駅前八重洲口 あすか会議室

【1. 研修目的】

現在、5歳児を義務教育開始や、道徳を教科化など、教育改革の動きが国レベル活発になっています。乳幼児期から高齢者まで、あらゆる年代における「家庭教育」について、深く学びたいと思い、今回の研修会に参加いたしました。

【2. 結果報告】

(1) 内容

1日目 「地域資源を活用した新しい家庭教育支援のカタチ」

家庭と学校と地域をつなぐ中間支援の重要性から、家庭教育支援チームの役割と組織化マニュアル、推進活動を実施するうえで必要な検討課題について話された。

時代が変わり、家庭教育を取り巻く環境も大きく変化し、子育てが「孤育て」と言われるようになった昨今、地域資源を生かしながら、家庭教育支援を目的とする「家庭教育支援チーム」の存在は、市民が安心して子育てができる環境を作り上げるために、大きな役割を果たしている。

安心して子育てができる町では、子育て世代の流出は少なく、さらに新しい市民の流入が期待できる。

講師の水野氏は、文科省の最新情報を盛り込みながら、地域資源を活かした新しい家庭教育支援のカタチについて示された。

2日目 「家庭教育支援行政の実際」

「家庭教育支援」に関する法律の解説や、現状を紐解くデータ、公的支援の成り立ちと現状の課題などについて説明された。

家庭教育支援に関しては、改善すべき課題が山積している。だからこそ、地方自治体独自の新しい「家庭教育支援」は、魅力的な自治体をアピール起爆剤となる可能性がある。

教育支援が充実すると子育て世代の流出を食い止め、新たな市民流入を促すことにもつながる。教育の原点は家庭にあることは明白で、その「家庭教育支援」から教育改革に切り込むことが大切である。

(2) 考 察

私は以前から、一人ひとりの子どもの良さ（素晴らしさ）が、一人ひとりの子どもに実感できる家庭・地域・学校・園のシステム作りのための第一歩は、どのように踏み出せばいいだろうかと、思い悩み続けてきました。それで、今回「家庭教育支援」というタイトルに心惹かれ、受講いたしました。

水野達郎氏は、文部科学省「家庭教育支援チームの在り方に関する訪問アウトリーチ支援事業」の選定委員会を務めていらっしゃいます。そして不登校の訪問カウンセラーとして多くの不登校児童及び生徒と関わり、復学へ導かれた経歴をお持ちです。

同氏は、民間で不登校生と保護者に寄り添い、家庭・地域・学校・国の機関とつながりを持ちながら、実体験から行動を起こしていかれるということでした。

公的な家庭教育支援の充実が問われる中、「家庭教育支援条例」施行に先鞭を着けたのは、熊本県と鹿児島県でした。

家庭教育力が低下し、保護者の約半数以上が問題意識や悩みを抱えており、一方教師の90%以上が「家庭教育」の充実を望んでいるデータも示していただきました。

課題解決には、「未然予防＝家庭教育支援」の充実が必要です。その具体策として「家庭教育支援チーム」の役割の明確化、組織化、推進活動が大切であることを強調されました。

休憩時間は言うまでもなく、講演の終了後も水野氏と名刺交換しながら話す人が多く見られました。私もお話しをさせていただきました。何らかの形で実践に踏み出さなければと強く思いました。まずは、慎重に現状を把握し、確認する勉強から第一歩を踏み出したいと考えております。

ありがとうございました。